

子どもの時からのゆめ

私は**radislav gombarsky** ともうします。

スロバキアのしゅっしんです。

今日、こどものときからのゆめについてはなします。

どうぞよろしくおねがいします。

子どもの時から私はアジアのことにきょうみがありました。

すうねんご、りゆうはわかりませんが日本がとくべつになりました。十六さいのある日、日本語をべんきょうしたかったので、いもうとに日本語のきょうかしょを、さがしてほしいとおねがいしました。その時、いもうとがよく、こくりつのとしょうかんで、べんきょうしていたので、その日いもうとが、ほんとにきょうかしょを、持ってかえってくれました。その時から、日本語が大好きになって、それにいろいろな日本のえいがをみたり、日本についての本をよんだりしました。なかでも、こじきはとてもおもしろかったです。けれども、私はちいさい町に住んでいたので、日本語のべんきょうするのがちょっとむずかしかったです。日本語のじゅぎょうはとおいがっこうで、いけなくてべんきょうできませんでした。いつかは日本に行くことが私のゆめでした。ながいあいだ、ゆめについて、まいにちかんがえていました。しかし、そのゆめのためになにもしませんでした。だから私はこうかいしています。

おとし、私は仕事のためにアブダビにきました。ある日の朝、仕事ばでざっしをよんでいました。「日本語で**hallo**をならってみて。。。」というきじをよみました。もういちど、日本語をべんきょうしたくて、このとき、ぺらぺらに話すところになにかいきました。はじめて、日本語のじゅぎょうをうけて、さらに先生はほんとに日本人で、うれしかったです。その時から、日本語がもっともっとすきになったので、まいにちべんきょうしています。日本にすむことは今の私のいちばんゆめです。今、日本人の友だちがいるので、いろいろおしえてくれます

。ここまでこれたのは、先生がたのおかげです

。先生はみんなやさしくて、いつもてつだってくださいます。ほんとうに

ありがとうございます。まだまだ長いみちのりですが、私はこれからも、
もっともっとうまいます。